

2021 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生工科自動車大学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生工科自動車大学校の2021年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2022年 1月31日

校 長 竹口 伸一郎

自己点検・評価責任者

校長代行 永江 貴史

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 5 -
	基準 2 学校運営	- 6 -
	基準 3 教育活動	- 7 -
	基準 4 学修成果	- 11 -
	基準 5 学生支援	- 12 -
	基準 6 教育環境	- 13 -
	基準 7 学生募集	- 14 -
	基準 8 財務	- 15 -
	基準 9 法令遵守	- 16 -
	基準 10 内部質保証	- 17 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 18 -
	基準 12 国際交流	- 19 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

① 教育理念

一流技術者として広く国内外で活躍できる確かな技術と知識、コミュニケーション力を備え、感謝心や他者を思いやる気持ちを持つ社会性豊かな学生を輩出する。

②教育目標

【1級自動車整備科】

4年間で1級自動車整備士資格を目指す。幅広い高度な整備技術能力（新しい電子制御機構や新技術にも対応できる総合診断力）とビジネス感覚を身につけた整備技術コンサルタントとしての人材を育成する。さらに、環境保全や安全管理の学習を通して、職場や地域環境保護に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

【2級自動車整備科】

2年間で2級自動車整備士取得（ガソリン・ディーゼル）を目指す。整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎技術を身につけた人材を育成する。また、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向に合わせて、正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる人材を育成する。

【自動車工学・機械設計科】

車輛制作実習を通して、自動車の構造を理解し、構想設計、詳細設計、コスト管理、プロジェクト管理、スケジュール管理を実践的に学び、設計開発エンジニア、生産技術エンジニアを目指す。自動車メーカー、自動車部品メーカー、産業機械メーカー、エンジニアリング企業のいずれにも対応できるカリキュラムで、自ら考え、自ら動けるものづくりエンジニアを育成する。

【国際自動車整備科】

3年間で2級自動車整備士取得（ガソリン・ディーゼル）を目指す。日本企業が求めるビジネスコミュニケーション力および整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎技術を身につけた人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業を体系的に配置する。
自動車業界が現在、自動車の動力の多様化と安全装置の技術革新の変革期にある状態。その為業界から必要とされる技術者を育成することを目的に、各学科のカリキュラムをもとにカリキュラムツリーやカリキュラムマップを作成しディプロマポリシーやカリキュラムポリシーとの整合性をとり、体系的な編成を作成する。
- ② 教育のDX化に向けたコンテンツ制作および活用
コロナの影響により遠隔授業が増えた為、対面での授業に比べ、各学科の教職員において学生の理解度把握が困難になってきている。
遠隔授業下でも学生の理解度を向上させるために、グループで共有された授業ツールの活用と併せて、自校内でも授業ツールのDX化を進めていく。
- ③ 留学生に対するサポート体制の整備
昨年以上に留学生の学校生活における様々な悩み、要望に応える事が出来る体制を整備する。

2. 取組み状況

革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業を体系的に配置する。
カリキュラムは年度開始前に各学科で検討し修正しながら実施している。カリキュラムツリー、カリキュラムマップの作成については1級整備科について完成している。今後は他学科の完成を目指し体系的な編成を行う。

- ① 教育のデジタル化に向けたコンテンツ制作
指導ツールのデジタル化に長けた教務が先行して制作を行っている。
- ② 留学生に対する相談体制の整備
留学生対象にアンケートを実施し、取得した意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図っている。

3. 総括（成果と課題）

① 学科のカリキュラムを順次性のある授業科目として体系的に配置する。

2020年4月の法改正（特定整備）に伴い、カリキュラムにおいても急遽それに準じた内容を取り入れた。また、国より発表された自動車整備士資格制度の変更に伴い、今後はカリキュラム作成の為の情報収集を積極的に行う。

② 教育のDX化に向けた教育ツールの作成

教育ツールの制作については一部の教員に留まっており、教員全体としての取り組みとしては不十分。学生の理解度の把握や使用効率を向上させるため、情報収集を行う必要が出てきた。

③ 留学生に対する相談体制の整備

2020年に発足した「留学生の会」を軸に、アルバイト情報の共有やボランティア清掃活動等留学生が主体となって活動出来る場が増えている。今後も適宜課題を吸い上げ、改善を図っていく。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1 - 1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

学校として教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能するよう、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化する為に「学校の教育理念」の明文化が求められるので「学校の教育理念」を本部と共同で作成。学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、Webサイトにて社会に公表した。

【課題】

特になし

【今後の取り組み】

「学校の教育理念」について、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、「法人の理念」「学校の教育理念」「学科の教育目的・育成人材像」を本部と連携を図った上でWebサイトにて社会に公表している。変更等があれば随時対応する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====
基準 2 学校運営
=====

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

麻生塾本部の運営方針を共有策定し周知している。運営方針に沿った事業計画を部門長にて策定し共有すると共に全体へ周知している。定例のリーダー会議や全体会議といった意思決定システムを整備し、活用している。また、麻生塾システム・デスクネットを有効活用し就業規則やスケジュール管理や伝達事項を共有、業務の効率化を図っている。教職員の募集・採用は本部の人事グループと連携し対応している。また昇格については業務遂行シート、目標達成シートを使い面談を実施し、合意に基づいた評価を行っている。

学校業務については学内の事務局の他にグループ本部内に人事、経理、留学生窓口など様々な支援組織が設置され、十分に機能している。また、教職員は意欲・資質の向上を図るために本部及び外部主催の研修に計画的に参加している。

また、人事に関してはコンプライアンス体制の強化に加え、人事制度・評価制度を教職員の納得性の高い制度に改定するための地盤固めとして、労働時間管理体制・雇用管理体制の再構築を行った。

【課題】

コロナ禍において情報の伝達手段が複数にわたる（対面、メール、Teams 等）ことで伝達方法の統制が困難な場も出てきた。人事に関しては、現行制度と社会情勢の間に乖離が見られる部分が出てきている。

【今後の取組み】

コロナに伴う社会環境の変化と共に勤務制度においてもテレワークの導入などが進んでおり、働き方の改革においても柔軟に対応している。

情報システム化や意思決定システムにおいては現在 Teams の活用について教職員の理解も深まってきており、さらなる活用を図って行く予定。人事に関しては、2021 年度で、新制度構築の基盤が出来上がってきたため、2022 年度からは新しい人事制度・評価制度・給与制度の整理再構築を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

学則及び成績評価、進級および卒業に関する規定内で教育目的および育成人材像に基づき進級・卒業要件を明示した上で、学校構成員に周知している。また、成績評価及び卒業・進級条件についてはHPを通じて社会に公表した上で定期的に検証を行っている。

また、カリキュラム及びシラバスにてカリキュラムポリシーを明示し学校構成員に周知している。また授業科目等の概要においてはHPを通じ社会に公表し、定期的に検証を行っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

社会や時代背景により育成する人材像は流動的に変化する為、学校関係者評価委員や教育編成委員にて企業・業界団体の意見を取り入れ、継続してニーズに合った教育課程を編成・実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を提供している。

専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で学科・実習などの教育方法および適切な時間配分により十分な学習指導を行えているが体系的なカリキュラムマップの作成までは至っていない。

授業はシラバスに基づいて授業が展開されており、データとして保管した上で学校構成員に周知を図っている。さらにインターネット上で専門知識の学習が行えるソフト（my トレーニング）のID・パスワードを入学者へ事前に配布しリメディアル教育を行っているが、実施においては一部の学科に留まっている。

専攻分野における実践的な職業教育については全学科対象（整備科1, 2級は2社、自動車工学・機械設計科は1社）による企業の非常勤講師による授業を実施している。また企業へのインターンシップについても全学科にて定期的実施している。

各学科1年次より就職実務の授業内で企業からの職種理解セミナーやOB・OG体験談など学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促している。

【課題】

教育課程の編成・実施方針に基づき、業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を適切に提供していく上で、時代に応じたカリキュラムの見直し及び、教材、設備の整備が適宜必要。

【今後の取組み】

専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で業界のニーズや新技術情報をタイムリーに収集し、計画的にカリキュラムの見直し及び、教材、設備の整備を行う。

学科毎の特性に合ったカリキュラムマップの作成を行う必要がある。1級整備科について完成しているので今後は他学科の完成を目指し体系的な編成を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	B
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	A
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

授業評価においては全教員及び非常勤講師を対象に年2回教師アンケートを実施。結果については本部が集計し、分析後に結果を通知。状況によって改善を図る目的で部門長による授業見学及び個別指導を実施しているが、その後部門長から各教員へフィードバックについては口頭での伝達に留まっている。
また、新任の教員対象にチューター制度を活用・非常勤には担当教員を導入し、教育の評価と指導を行っている。

【課題】

授業内容の改善については都度修正を図りながら行う必要がある。

【今後の取組み】

教育編成委員会議で上がった意見を基に検討を図る。
また、授業の課題や改善に関するフィードバックについては可視化できる状態にしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

授業評価の実施・評価体制においては「期末成績・評価実施要領」を作成し、評価基準の統一を図った。また、定期試験や平常点の結果については成績入力表へ入力し、可視化を行い、成績判定内容の誤差を無くした。また、授業時数及び授業方法により単位数を決定し認定している。さらに学則及び成績評価、進級および卒業に関する規定内で進級・卒業判定を行っている。

【課題】

現状特になし。

【今後の取組み】

成績評価については職業実践専門課程・教育課程編成委員会にて期末試験や單元ごとに実施する授業内容確認テストの内容についても意見を頂き、さらに評価精度を上げていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築し、組織体制を整備している。また、教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のために学内・企業団体が実施する研修へ計画的に参加する事でスキルの向上を図っている。

【課題】

企業団体が主催する教員向けの研修について、定期的に職員が参加しているが、人によって参加頻度にばらつきがある。

【今後の取組み】

学内・企業団体が実施する研修への参加についてはオンラインを含め、計画的に調整していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S

=====

基準 4 学修成果

=====

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

年度開始前に学科会議で前年度の結果や評価を考慮し、学生に関する目標設定を行い、キックオフ会議で教職員が情報共有、周知できるようにしている。

就職に関しては各学科について月ごとの目標を設定している。内定状況や学生の内定先など就職の動きが教職員で共有できるシステムを作成し、データの管理を行っている。就職担当と担当教員で毎週実施している定期会議やミーティングを開き、学生の就職状況に関して検証を行い、教職員に対して学科会議などで定期的に報告を行っている。学校のパンフレット・HP・オープンキャンパス・入試説明会・保護者会などで外部に対して就職実績を公表している。

評価・成績・資格・検定・退学に関しても担当者会議を設け目標設定を行い、結果や結果に対する検証を文書化し記録すると共に教務会議などで教職員に共有している。

卒業生の専攻分野における社会的評価については毎年企業に入社後 1, 3 年目の卒業生を対象としたアンケートを実施し適応性や効果を確認している。また、例年卒業年次学生を対象に早期離職防止セミナーを実施していたが、コロナの影響により実施が出来なかった。

【課題】

コロナの影響により遠隔授業が増えた為、対面での授業に比べ、各学科の教職員において学生の理解度把握が困難になってきている。

【今後の取組み】

遠隔授業下でも学生の理解度を向上させるために、グループで共有された授業ツールの活用と併せて、自校内でも授業ツールの DX 化を進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	B
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	A

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生の修学支援や進路支援については担任及び就職専任スタッフにより適切な支援を行っている。また、学生相談に関してはカウンセラー及びハラスメント委員を設置している。また、学生の経済的側面に対する支援制度として学生支援機構及びグループ独自の奨学金制度、学費分納制度を整備し学生へ案内し、希望者には適正な審査を行っている。

学生の健康管理を担う体制として定期的な健康診断の実施や AED の設置に加え、学生の生活環境への支援として直営・提携寮の設置を行っている。

保護者に関しては担任を軸に保護者会や 3 者面談などを実施し、連携を取っており、卒業生・社会人に関しては校友会組織の設置や再就職支援、国家試験対策といった体制を整備している。

その他にも学生の課外活動に対する支援として各クラブ活動に顧問を置き、活性化・支援を行っている。

【課題】

留学生を中心にコロナの影響でアルバイト活動ができず、経済的に困難な学生が増えた。

【今後の取組み】

学内へ案内の来ているアルバイト情報については環境の変化に応じて学生へ展開できる環境を整える。
留学生については留学生の会を通じたアルバイト情報の共有を促進する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	A
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

コロナの影響から遠隔授業の機会が増え、それに伴い学内でのオンライン授業用の環境整備に取り組んだ。
図書コーナーについては、学生の使用頻度も低い事もあり、管理体制が整っていない状況。

【課題】

オンライン授業の頻度が増加したが、Wi-Fi 環境の整備が間に合っておらず、運用時に支障をきたす場が多かった。

【今後の取組み】

Wi-Fi 環境については備品の補強を図り改善を図ったが、授業精度の向上を図る上ではさらなる整備が必要。
今後もネット環境や備品購入等、環境整備を図って行く。
DX 化推進に伴う機材整備もあわせて、引き続き教育環境の改善に取り組んで行く。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	B

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

学外の実習施設として、福岡県自動車整備振興会にて定期的に研修を受講させている。インターンシップについて、1級整備科については4年次に内定先企業を基本として体験実習を実施している。整備科の設備については企業より提供頂いた車両を使って新たな整備実習を授業に取り入れる事が出来た。また、防災、耐震の備えとして、外壁の修繕を図った。

【課題】

コロナの影響により、当初予定していた研修旅行がすべての学科で実施出来ず、通常授業を行うに留まった。

【今後の取組み】

教育環境に関しては時代背景を考慮しつつ、意義や教育課程上の位置づけを向上させる為に適切な環境を提供する。またインターンシップ先や研修旅行の行き先については意義や教育課程上の位置づけを確認しながら代替え案を含め検討し、決定していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

=====

基準 7 学生募集

=====

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、募集要項やホームページを通じて学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表している。

募集活動においても、パンフレット、ホームページを通じ検定合格状況、就職状況などの教育成果を正確に伝えている。

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っている。

また、学生納付金については、法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定がなされている。

【課題】

オンラインの普及により、多様な募集方法や入学者選抜方法への対応が必要となる為、適宜見直しを図る必要がある。

【今後の取組み】

グループ校及び各種専門学校の情報を収集し、アドミッションポリシーに則した募集活動を行っていく。
学生給付金についても、引き続き妥当な給付状況となっているか確認に努める。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S

=====

基準 8 財務

=====

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。予算計画を策定し、必要に応じて前年度対比分析を行っている。重要な差異が生じた場合には、原因の特定や問題点の把握を行い、適切に対応している。

監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

情報の公開については、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題】

現状特になし

【今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取組みを継続的に行っていく。その取組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討、その実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

=====

基準 9 法令遵守

=====

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

法令等遵守に関する啓蒙や教育が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っている。法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われ、法令等遵守義務や違反に対する処分等が規程の中で明確にされ、問題発生に対応する通報システム等の体制も整っている。

【課題】

現状特になし。

【今後の取組み】

教職員が定期的に法令遵守に関する研修会へ参加し、全教職員の理解を深めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

=====

基準10 内部質保証

=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、重点項目を定め課題解決に取り組んでいる。学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、意見を集約し、改善の取組みを行っている。自己点検・評価及び学校関係者評価の結果をホームページ上で公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

【課題】

自己点検・評価の重点項目については教職員全体への共有が年度初めのみとなっており、教職員間で目標意識の差がみられる為、効率的に改善を行えていない。

【今後の取組み】

自己点検・評価の重点項目については改善策の実施状況の中間・結果を全教職員に全体会議の中で定期的に共有する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

学生の地域貢献として、教育内容を生かし、小学生を対象に職業体験イベントを開催している。
また、留学生の会にて地域清掃のボランティア活動を行った。

【課題】

ボランティア活動が限られた組織内での実施に留まった。

【今後の取組み】

ボランティア活動については対象範囲を広げるなど新たな取組みを常に検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A

基準 1 2 国際交流

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っている。
留学生に対する相談体制として、各クラスに担任及び担当主任が在籍しているものの情報収集するツールとしては全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまっている。
また、ビザの更新手続きに対応できる有資格者を配備している。
海外留学プログラムに対する支援として学生対象に年に 1 回海外留学説明会を開催。さらに在校生向けに無料の語学講座も開催している。

【課題】

留学生の支援組織として「留学生の会」を発足したが、一部の学生間でのコミュニケーションに留まっている状況。

【今後の取組み】

留学生の会を通じて学校が留学生間の課題や要望をさらに支援出来る様にしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S